



太田 ゆう子

Yuko Oota

INTERVIEW

9

環境に応じた自分らしい働き方で あせらずにキャリアを構築して！

ロリータファッションをご存知でしょうか。レースやフリルをあしらった少女趣味的な服装というイメージしやすいかもしれませんが、実はこれ、西洋の伝統衣装に現代性をミックスしたクリエイティブな日本発のファッションなんです。単なるコスプレや趣味ではなく、自分の生き方を表現するスタイルとして、新たな「クール・ジャパン」を発信。新規産業・雇用の創出、観光資源の開拓なども視野に活動しています。まさか還暦間近で起業するとは思いませんでしたが、美容部員、メイクアップアーティスト、講師など、これまでの経験がいかされていると感じます。女性は年齢や家族のことで働き続けられないこともあります。同じ仕事を同じペースで続けようとするから難しくなるのです。その状況に応じた働き方も大切。年齢を重ねたとき自分らしい、自分だけのキャリアができますよ。



タイムスケジュール



合同会社 北ロリに所属してロリータファッションを展開・発信しているが、メイクアップアーティストとしての活動も続けており、これは北ロリでのスケジュール。帰宅後は、部屋にひきこもって読書や映画を観ているという



PROFILE

1955年生まれ。メイクアップアーティストとして活動。専門学校・高校非常勤講師・社会人パーソナルイメージメイキング講座、札幌市「男女雇用参画事業」の講師などを務める。合同会社 北ロリに所属。
<http://kitaloli.com/>

現在の仕事(活動)について

メイクアップアーティストとして専門学校や高校で講師を務めています。また、2012年より、「北海道スタイル」として独自のロリータファッションを構築。サッポロ・ロリータ・クラブを立ち上げ、国内外に発信するとともに、雇用や観光資源などを創出しようと北海道の委託事業に関わっています。

プライベートの過ごし方

映画は、禁断症状が出るほど大好きですが趣味の三味線はなかなか上達せず…。最近ではJAZZに夢中(聴くだけ)。いつものテリトリーから離れ一人旅にたり、木々に包まれ気分転換ということも大事な過ごし方。また、ライフワークとして植林活動をしていて、2004年より長沼町にて「マオイ森づくり研究所」を設立し、育苗と植林を通しセミナーなどを開催しています。



- ① 2013年10月に行われた「ロリカワモニターツアー」では市内観光地などをめぐって撮影会も行われた
- ② サッポロ・ロリータ・クラブのロリータさん
- ③ 2012年、「ロリータ研究所」として、パラスシュートグループの第1回ビジネスアイデアコンテストで優勝
- ④ メイクアップアーティストとして、さまざまなメイクを提案している



独自のロリータファッションを世界に発信

「やりがい」だと感じられること

国内外で注目されているロリータ・ファッションを、北海道独自のスタイルとして発信すべく活動しており、ロリータさんのコミュニティや新ブランドの構築など新しい発見が毎日あります。世界に向けて動いていることに刺激があり、楽しいですね。いくつになっても挑戦は大事です。

忘れられないエピソード

20才代から社会参加する機会があり、その仕事の質によって、周囲の理解度は変わると感じました。たとえば有償と無償の労働がありますが、経済をとまなう仕事は認められやすく、ボランティアや市民運動などについては理解されるのに時間がかかります…という場面を何度も経験しています。

仕事と家事の両立で工夫していること

ふたりの子ども(36才、32才)は自立。わたしが育児をしていたときから、家族制度としての女性の役割、女性が働くということへの理解度も変わってないように思います。育児も介護も女性が多く担っていますが、家族みんなで協力することが当たり前になれば、社会も意識が変わるのではないのでしょうか。

女性が活動する上で不足していること

社会的には、保育関係は若い女性の社会進出を促すため、早急に対処すべき課題だと思います。また、女性側の課題としては、仕事をするに対する自己主張と社会性(協調性)のなさを感じる場合がありますので、まずは「なぜ働くのか」という自分なりの答えを求めてみるのが大切ではないのでしょうか。

札幌を拠点に活動することについて

札幌は、都市というイメージがあり、自然豊かでローカル感も味わえる。わたしたちのようにアクションを起こすと、なんらかの影響があるという意味では、人の顔が見えるちょうどいいサイズのまち。新しいものを受け入れる人とまちの寛容さも持ち合わせており、活動しやすいと思います。

社会で女性が活躍することについて

まだまだ社会の仕組みが、男性主体になっていると感じています。多くの場合、組織の決定権は男性にあります。もっと女性の視点を取り入れ、その意見を社会貢献や事業にいかすことで、より質の高い価値が生まれ、社会の許容量(力)が増し、幅広い価値観が生まれるのではないのでしょうか。

今後の目標・展望など

北海道、札幌の風土や特性、おらかな人の質が魅力だと思います。そして新しい事業を發展させていくことに希望ももてるアンビシャス精神と、多様な文化を育むフロンティアな土壌があるので、まちづくりとその文化をミキシングして新しい文化を築いていけることを期待しています。

活動を望む女性へのメッセージ

学校教育の一端を担っていると、若い人が意外と保守的だと感じることも多々あります。考えてから動くこともいいですが、考え過ぎると動けなくなります。まずは心で感じたら行動して、何かあったら考えるというスタイルで生きていくと、もっと人生を楽しめると思いますよ。